

東日本大震災の教訓

防災報告会 in 小樽

地域防災力の向上に向けて

11月1日(火)小樽経済センターにて、東日本大震災を教訓とした地域防災力の向上に向けた報告会が開催されました。

この報告会は、川崎博巳北海道開発局開発監理部次長が東日本大震災時の被災状況とその災害対応について説明するもので、全道10か所で開催を予定しており、小樽は第7回目の開催となりました。約160名の方達が来場しました。

川崎次長は震災当時、東北地方整備局仙台河川国道事務所長として現地の最前線で災害業務の指揮を執るという体験を踏まえ、その時の壊滅的な被災状況や、震災直後からの災害協定に基づく地元建設業等の協力による道路・河川・海岸・空港の迅速な復興、TEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)やリエゾン(現地情報連絡員)の様々な復旧活動支援等について説明をしました。

また、その経験を通して、災害協定業者も被災している中での広域的な支援体制のルール化や、燃料の確保、道路や河川の区域内に漂着した車両・船舶・家屋等の処理方法のルール化といった、防災体制上の課題についても何点か上げました。

そして、この未曾有の大震災の教訓として、「日頃の準備、訓練が本番でも役に立つ」「国交省の組織力、機動力、機械力が活躍」「日常的な市町村との意思疎通、信頼関係が大切」と訴えました。



川崎開発監理部次長



挨拶する山口
小樽開発建設部長



会場には震災当時の被災状況やその後の復興の様子を写真にしたパネルも展示。訪れた来場者は真剣に見入っていました